

高等学校における道德教育の推進の在り方に関する研究 （最終報告）

－「明日を拓く」の活用を中心とした取組－

人間としての在り方生き方を考え、主体的に判断し行動する生徒の育成に資することを目的として、高等学校における道德教育の在り方及び推進方法について3年間の研究を行った。1年目に作成した『高等学校における道德教育推進のための一問一答集』を踏まえて、2, 3年目は『明日を拓く』（愛知県教育委員会発行）を活用した取組やマイクロインサージョンの手法による取組を進め、国語科、保健体育科、家庭科、工業科、総合的な学習の時間など、さまざまな教科等において道德教育の推進が可能であることを示した。

<検索用キーワード> 高等学校 学習指導要領 生きる力 在り方生き方
道德教育 全体計画 明日を拓く マイクロインサージョン

顧問

名城大学人間学部教授

宮嶋 秀光

指導・助言

県教育委員会高等学校教育課課長補佐

田中 耕太郎

研究協議会委員

県立鳴海高等学校教諭（現県立天白高等学校教頭） 豊永 秀行（平成25, 26年度）

県立瀬戸高等学校教諭（現県立瀬戸高等学校教頭） 勝見ひろみ（平成25, 26年度）

県立岡崎工業高等学校教諭 五十嵐崇文（平成25, 26, 27年度）

県立豊橋商業高等学校教諭 小島 佳世（平成25, 26, 27年度）

県立豊田西高等学校教諭 久田 恒夫（平成27年度）

県立松平高等学校教諭 松宮 博（平成27年度）

総合教育センター教科研究室長（現県立時習館高等学校教頭） 齋藤 育浩（平成25年度）

総合教育センター研究指導主事（現豊川市立金屋中学校主幹教諭） 田中 基明（平成25年度）

総合教育センター教科研究室長 米津 明彦（平成25主務者, 26, 27年度）

総合教育センター研究指導主事 川口 永理（平成27年度）

総合教育センター研究指導主事 浅倉 幸代（平成26, 27年度）

総合教育センター研究指導主事 小崎 早苗（平成26, 27年度主務者）

1 はじめに

昨今の子どもたちの現状として、自制心や規範意識が希薄になり、生活習慣の確立も不十分であることが挙げられている。また、いじめや暴力行為等の問題行動に見られるように、心に問題を抱える子どもが増えていることも指摘されている。さらに、自分に自信のある子どもが国際的に見て少ないことや、学習や将来の生活に対して無気力であったり不安を感じたりしている子どもが増えていることも課題となっている。このような状況から、学校においては、集団生活の場としての機能を十分に生かし、道德教育をいっそう充実することが求められている。

現行の学習指導要領では、学校教育において「生きる力」という理念を共有し、「確かな学力」「健やかな体」とともに「豊かな心」を育むこととし、児童生徒の発達の段階に応じた道德教育に取り組み、学校の教育活動全体を通じて道德性を養うことが示されている。小学校及び中学校では「道德の時間」が要の時間として設定され、1年間で取り上げる内容項目も明示されており、道德教育推進教師（道德教育の推進を主に担当する教師）を中心とした指導体制の充実や、発達の段階に応じた指導内容の重点化等が求められている。さらに、平成27年3月に学習指導要領の一部改正が行われ、道德の時間が「特別の教科」という新たな枠組みによって教科化されるに当たり、検定教科書の使用や評価の在り方等、取り組むべき課題も増えている。高等学校においては、生徒が人間としての在り方生き方について自ら考え、体験活動や思索の機会を通して自分自身の判断基準を確立し、自分にふさわしいよりよい生き方を選択できるようになることを目指し、中学校の道德教育の指導内容を踏まえた道德教育を行うことが大切であるとされている。

平成23年6月に策定された「あいちの教育に関するアクションプランⅡ」では、幅広い県民の参加により道德性・社会性の向上を図ることが第一の重点目標とされ、道德教育の充実には、本県の学校・家庭・地域が連携して取り組むべき主要な施策となっている。愛知県教育委員会では、平成25年3月に道德教育指導参考資料『明日を拓く一人間としての在り方生き方を求めて－』を発行し、各高等学校がさまざまな教育活動の場で具体的に活用することのできるワークシート付きの教材を紹介しており、それらを参考にして、各教師が創意工夫を重ね、いっそう充実した取組を行うことが望まれる。

各高等学校においては、全教師が協力して道德教育を展開するため、指導の方針や重点を明確にした道德教育の全体計画を作成し、年間指導計画に基づいた道德教育を実践することが求められている。しかし、高等学校では、「道德の時間」が設定されていないことや、道德教育についての実践研究が少なく、具体的なイメージがつかめないことなどから、道德教育が浸透し充実しているとは言い難い状況である。各校で道德教育を意図的・計画的に推進するための方策が必要となっている。

これらのことを踏まえ、本研究では、高等学校における道德教育の在り方について研究を進め、各学校における道德教育の推進に資する提案をすることとした。

2 研究の目的

人間としての在り方生き方を真摯に考え、主体的に判断し行動する生徒の育成に資することを目的として、高等学校における道德教育の在り方及び推進方法について研究する。さまざまな実践に取り組み、具体的な事例を紹介することにより、県内各高等学校において道德教育の実践意欲が高まることを目指す。さらに、各校が設定する道德に関する重点目標の実現に向け、教育活動全体において計画的な道德教育が展開されるよう、具体的な提案をする。

3 研究の方法

平成25年度から平成27年度までの3年間にわたり、研究協力委員と所員との共同研究を行う。

平成25年度は、以下の4点についての調査及び実践を基に、高等学校における道德教育の推進の在り方について協議し、その内容について、総合教育センター研究発表会において第一次報告を行うこととした。

- (1) 学習指導要領の趣旨を踏まえた高等学校における道德教育の在り方について
- (2) 義務教育段階における道德教育の内容と、高等学校への円滑な接続について
- (3) 道德教育先進県での取組と、本県の道德教育推進の方向性について
- (4) 『明日を拓く一人間としての在り方生き方を求めて－』（愛知県教育委員会発行）の活用による道德教育の具体的な取組や推進方法について

平成26, 27年度は、初年度の成果を踏まえ、以下の2点についての調査及び実践を基に、高等学校における道德教育の具体的な推進方法について協議し、その内容について、総合教育センター研究発表会において発表することとした。

- (1) マイクロインサージョンの手法による、各教科・科目等の特質に応じた道德教育の推進を図る取組について
- (2) 『明日を拓く一人間としての在り方生き方を求めて－』（愛知県教育委員会発行）を活用した各教科等における道德教育の推進方法について

なお、平成25年度の取組の詳細については、総合教育センター研究紀要第103集（平成25年度）に「高等学校における道德教育の推進の在り方に関する研究（第1次報告）」として掲載されている。

4 研究の内容

(1) マイクロインサージョンの手法による道德教育の推進を図る取組（実践報告No.1 参照）

岡崎工業高等学校では、学校の教育活動全体を通じた道德教育を促進するために、校内の現職研修会において道德教育指導者中央研修の伝達講習を行ったり、各教科・校務分掌の代表者による道德教育の全体計画の見直しを行ったりした。同時に、マイクロインサージョンを活用して、各教科・科目の特質に応じた道德教育の推進を図る方法について、校内の初任者研修や5年経験者研修を兼ねた現職研修会において学び合いを進め、各教科・科目の授業において積極的に活用されるよう図った。なお、マイクロインサージョンとは、各科目の授業内容の中に、特定（ここでは道德）の内容を埋め込む手法のことである。

マイクロインサージョンを活用した授業案（資料1）の作成などを通じて、教職員の道德教育に対する理解が深まり、各教科・科目等だけでなく、学級活動や学年集会などにおいても、道德教育に関する実践が増えていった。どの教職員でも、比較的抵抗感なく取り組めるマイクロインサージョンの手法を用いた実践は、学校教育全体を通じた道德教育を進めていく上で、有効な方策になることが分かった。

【資料1 マイクロインサーションを活用した保健の授業案】

【教科・科目名 : 保健体育・保健】

【作成者 : ○ ○ ○ ○】

実施学年	1年	実施時期	6月
主 題 名	生活習慣（食生活）について考えよう		
内容項目	1－(1)基本的な生活習慣 2－(2)人間愛・思いやり		
資 料 名	『現代高等保健体育』（大修館書店）		
ね ら い	<p>【教科的視点】 自分の生活習慣を改めて見直すことにより、問題点を発見させ、改善することができるようにする。また、生活習慣の問題点を他者に相談することにより、新たな改善策に気付かせる。</p> <p>【道徳的視点】 自分の生活習慣を改善することにより基本的な生活習慣を身に付けさせる。また、他者の問題点に際し、改善策を考えさせることにより、相手への思いやりの気持ちを意識させる。</p>		
展開の 大 要	学 習 活 動		指 導 上 の 留 意 点
	導入	生活習慣（ここでは食生活について）を見直す。問題点をプリントに記入する。	自分の問題点について、具体的にプリントに記入するように伝える。
	展開	自分の問題点について改善策を考え、プリントに記入する。 プリントを隣と交換し、相手の問題点について、改善策を考え、記入する。	実現可能な改善策を考えさせる。 相手のことを考え、効果的で実現可能な改善策を考えるようにさせる。
	終結	互いに考えた改善策について、相手に分かりやすく伝える。	自分のことを思い、改善策を考えてくれていることを理解させる。
評 価		評 価 の 方 法	
<p>【教科的視点】 問題点について効果的な改善策を考えることができる。</p> <p>【道徳的視点】 相手のことを思いやり、改善策を考えることができる。</p>		<p>【教科的視点】 プリントにしっかり記入できているかによって評価する。</p> <p>【道徳的視点】 相手のことをしっかり考えて改善策を記入できているかプリントで評価する。</p>	
他の教育活動との関連		授業の反省・感想・課題	
家庭科や体育等で、生活習慣や健康増進について考えを深める。		相手に考えた改善策を説明する時間を多く取れなかった。また、全体に発表させ、意見交換を行えばよかったと思いました。	

(2) 『明日を拓くー人間としての在り方生き方を求めてー』を活用した道徳の授業実践

県内の各県立高等学校に配付されている道徳教育指導参考資料『明日を拓くー人間としての在り方生き方を求めてー』には、総合的な学習の時間や特別活動の時間などさまざまな教育活動の場で活用できる20種類の道徳に関する教材及び展開例が掲載されている。添付のCD-Rには全データが記録されており、各校の実情に合わせてワークシートを加工して使用することもできる。

教材には「自己をみつめる」「他者を理解する」「社会と関わる」の区分があり、それぞれ次のタイトルの教材がある（資料2）。

【資料2 『明日を拓くー人間としての在り方生き方を求めてー』の教材タイトル一覧】

- ・「自己をみつめる」…自立度チェック，自分調べ，マナーとエチケット，15年後の私，
見てはいけない手紙，あと一步の勇氣，沈みゆくボート，
トリアージタッグ
- ・「他者を理解する」…「他者」との出会い，コミュニケーション実験，上手に自己表現しよう！，
クラスメイトのいいところ探し，沙紀の悩み
- ・「社会と関わる」…〇〇高校を紹介しよう，みんなでつくる条例，青少年の問題行動，
赤ちゃんポスト，郷土の偉人 杉原千畝（すぎはらちうね），
外国人から見たニッポン，模擬国連

各教科等においても、それぞれの特質に応じた適切な道徳教育の実践が求められていることを踏まえ、授業において、『明日を拓く』を活用した道徳教育の実践を試みた。

ア 豊橋商業高等学校の実践（実践報告No.2参照）

第3学年の生徒を対象として、家庭科の科目「家庭基礎」の六つの単元において、『明日を拓く』の教材「自分調べ」「自立度チェック」「上手に自己表現しよう！」「青少年の問題行動」「15年後の私」「マナーとエチケット」「赤ちゃんポスト」「みんなでつくる条例」「トリアージタッグ」「郷土の偉人 杉原千畝」を活用し、1年間で計12時間の実践を行った（資料3）。家庭科の目標を踏まえ「将来の社会人・家庭人としての自覚をもたせ、道徳的実践力を身に付けさせる」ことをねらいとして、『明日を拓く』の三つの区分の教材を計画的に位置付けた。

グループワークを継続することにより、生徒たちは、自分で考え意見を述べる体験や、他人の意見を聞いて学ぶ体験、他人を尊重しながら主体的に判断する経験などを積み重ね、思考の深まりを実感したことが分かった。また、考えを深めるための情報収集を自ら行ったり、深まった考えを基に行動したりするなど、人間として成長している様子も見られた。

イ 豊田西高等学校の実践（実践報告No.3 参照）

第3学年の生徒を対象として、総合的な学習の時間において、『明日を拓く』の教材「郷土の偉人 杉原千畝」を活用し、実践を行った（資料4）。「生命の尊さ」「自主、自立」「真理の探究」などの道徳的価値について、杉原千畝の生き方を通して深く考えさせると同時に、調べ学習とグループワークを取り入れることにより、「自律の精神」「役割と責任の自覚」についても体験的に学ばせることができ、教材と学習形態の双方に道徳的視点を入れる方法の有効性についても示すことができた。生徒は実践後、今後の生き方に反映させたい、人間としてよりよく生きたいと思った、などの感想を記した。

【資料4 「郷土の偉人 杉原千畝」を活用した授業案】

1 時限	学習活動（生徒）	指導上の留意点（教員）	参考
導入 (5分)	本時のねらいを知る。	○資料①の内容を説明し、本時のねらいを示す。	
展開 (40分)	<p>1 資料『杉原千畝と「命のビザ」』（出典：「知っていましたか近代日本のこんな歴史」国立公文書館アジア歴史資料センター）を読む。</p> <p>2 作業① 杉原千畝の業績について最初の感想を記録する。</p> <p>3 杉原千畝が、戦後不遇な時代を過ごしたことを知る。</p> <p>4 作業② 杉原千畝が不遇な時代を過ごさなければならなかったことについての感想を記録する。</p> <p>5 グループワーク① 6～7人のグループに分かれてタブレット端末を用いた調べ学習を行う。 調べて分かったことは、ワークシートに記録して次回の話し合いの材料を用意する。</p>	<p>○資料を読ませ、分からない言葉があれば質問するように指示する。</p> <p>○あまり深く考えさせず、率直な印象を記録させる。</p> <p>○資料②の内容を説明する。</p> <p>○あまり深く考えさせず、率直な印象を記録させる。</p> <p>○3グループは「当時のユダヤ人がおかれた状況」、3グループは「外務省が置かれた立場」、1グループは「外交官の仕事とは」というテーマを割り当てる。</p> <p>○次回は、グループを再編成して話し合いを行うことを予告して、充実した話し合いのためには、しっかりと調べる必要があることを伝える。</p>	
まとめ (5分)	ワークシートへの記入漏れがないか確認する。	○ワークシートを回収する。	

2 時限	学習活動（生徒）	指導上の留意点（教員）	参考
導入 (3分)	新しいグループに分かれて着席する。	○分担して調べた内容が共有されるように、前回の各グループから一人ずつを入れたグループに再編成する。 ○前回記入したワークシートを返却する。	
展開 (30分)	グループワーク② 前回調べた内容を互いに報告して情報を共有し、杉原千畝を取り巻く状況を明らかにする。	○司会者を「グループの中で誕生日が一番早い人」と指定して、日頃の人間関係とは無関係の役割を割り振る。 ○前回の調べ学習では、グループごとに異なるテーマについて調べており、今回のグループのメンバーは、それぞれが異なる情報を持っているはずなので、互いが調べた内容を報告してまとめるように指示する。	
まとめ (17分)	本日の話し合いを踏まえて、杉原千畝の生き方から学んだこと、考えたことをまとめる。	○机間指導をして、生徒の記入状況を確認する。 ○調べた内容にこだわり、杉原千畝の生き方から離れてしまわないように声をかける。	

ウ 松平高等学校の実践（実践報告No.4 参照）

第2学年の生徒を対象として、保健体育科の科目「保健」の「避妊法と人工妊娠中絶」の単元において、『明日を拓く』の教材「赤ちゃんポスト」を活用し、実践を行った（資料5）。道徳的視点からの単元の目標として、「生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する」ことを設定した。グループワークを行う中で、生徒たちは、赤ちゃんポストの是非や在り方についてさまざまな気持ちや考えを表現し、他の人の意見を聞く活動を重ね、自分の考えが次第に深まっていったことを実感していた。

本年度の研究により、『明日を拓く』の教材は、それぞれ複数の教科において実践可能であることが分かった。例えば、本研究では、「家庭基礎」（家庭科）と総合的な学習の時間における実践で、「郷土の偉人 杉原千畝」を活用している。さらにこの教材は、地理歴史科や公民科の授業に組み込むことも可能である。このように、高等学校において道徳教育の推進を図るためには、さまざまな教科において『明日を拓く』の活用を進めることが有効と考えられる。

【資料5 「赤ちゃんポスト」を活用した保健の授業案】

1 時限	学習活動（生徒）	指導上の留意点（教員）	参考
導入 (10分)	<ol style="list-style-type: none"> 人工妊娠中絶は、女性にとって大きな負担になることを理解する。 人工妊娠中絶の是非について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書 P72 の「中絶をおこなうということは新しい生命の芽をつむことを意味し、それは本当に大きな問題です。しかし、中絶をせずに出産するということも、妊娠した女性や周囲の人びとの人生設計を大きく変えてしまうことを意味します」という記述を読ませ、人工妊娠中絶の是非について問いかける。 ○生徒の考えを誘導する発言を避けるように留意する。 	
展開 (35分)	<ol style="list-style-type: none"> 「人工妊娠中絶は是か非かあなたの考えを述べなさい」というテーマのレポートを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分がもしそのような立場になったらどう考えるのかを想像して書くよう指示する。 ○難しく考えず、今の自分の考えを素直に表現するよう指示する。 ○机間指導を行い、生徒の取組状況を確認する。 	
まとめ (5分)	<ol style="list-style-type: none"> レポートを提出する。 次時の内容を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○取組状況を評価する。 ○次時、結果を示し、命の尊厳について考えることを伝える。 	

2 時限	学習活動（生徒）	指導上の留意点（教員）	参考
導入 (10分)	<ol style="list-style-type: none"> レポート「人工妊娠中絶は是か非か」の結果を知る。 「赤ちゃんポスト」とは何かを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○結果を示すのみで、是非を言及しないよう留意する。 ○教材を用いて分かりやすく説明する。 ○命の尊厳を考えることがテーマであることを理解させる。 ○グループとしての意見を発表することを原則とするが、まとまらない場合は、出た意見を発表するだけでもよいこととする。 ○意見を否定するような話し合いにならないようにさせる。 	『明日を拓く』より「赤ちゃんポスト」を、ワークシートも含めて使用
展開 (35分)	<ol style="list-style-type: none"> 「赤ちゃんポスト」ワークシートに取り組む。 6 グループに分かれ、意見を出し合う。 出てきた意見を1グループ2分ほどで発表する。 		
まとめ (5分)	<ol style="list-style-type: none"> さまざまな意見に触れることで、自分の考えを更に深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「赤ちゃんポスト」の是非ではなく、命の尊厳について考えさせることに留意する。 	

5 研究のまとめと今後の課題

(1) マイクロインサージョンの手法による道德教育の推進方法について

小・中学校と違って道德の授業時間が設定されていない高等学校においては、いつ、どこで道德教育を行うのがよいのかという時間捻出に関わる課題がある。その課題を解決する方法の一つが、マイクロインサージョンの活用である。実践報告No.1に示されているように、各教科・科目の学習目標の中に、道德的視点が含まれていることはよくある。マイクロインサージョンを活用した授業案の作成について学び、各教科・科目の学習を通して道德的なものの考え方・感じ方」を育む授業の在り方を知ることにより、各教科・科目の中で、無理なく道德教育を実践していくことができるようになる。実践報告No.1のように、校内研修等でマイクロインサージョンについて全職員が学ぶ機会をもつことにより、学校の教育活動全体を通じた道德教育の推進が可能になると考えられる。

(2) 『明日を拓くー人間としての在り方生き方を求めてー』を活用した道德の授業実践について

第1次報告（平成25年度）で、『明日を拓く』を活用した国語科と家庭科における授業実践について報告したが、平成26、27年度は、総合的な学習の時間や保健体育科、工業科などに実践の対象を広げた。家庭科においては、多くの単元に道德としてのねらいを記した年間学習指導案の作成も行った。生徒たちは『明日を拓く』を活用した授業において、グループワークを中心としたインタラクティブな活動を行い、教科等の学習内容とともに道德的価値について考え、同時に、主体的に判断することや協働することの大切さを学んでおり、さまざまな教科等の学習の中で、『明日を拓く』を活用した実践が可能であることが示された。また、『明日を拓く』の中の同一資料を、異なる教科・科目等において、それぞれのねらいに応じて活用できることも示され、『明日を拓く』が汎用性の高い道德の指導参考資料であることが確かめられた。

(3) 今後の課題

マイクロインサージョンの手法を用いることや『明日を拓く』を活用することは、高等学校において教育活動全体を通じた道德教育を促進するために、大変有効な方策である。しかし、実際に各学校における道德教育が充実したものになるためには、こうした方策の有効性について教職員一人一人がよく知り、学校全体で取組への気運を高めていくことが欠かせない。そのためには、校内研修等を通じて、全教職員に、教育活動全体の中で道德教育を進めていく方策についての理解を促すと同時に、道德教育の全体計画を全職員の手によって改訂したり、実践事例の共有を図ったりして、道德教育を推進する意欲をより高める必要がある。

本研究の成果を基に、各学校において実践が積み上げられ、道德教育のさらなる充実が図られることを期待したい。

参考文献等

- 文部科学省『小学校学習指導要領解説 道德編』東洋館出版社、2008
- 文部科学省『中学校学習指導要領解説 道德編』日本文教出版、2008
- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総則編』東山書房、2009
- 文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科道德編』2015
- 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科道德編』2015
- 中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」2008

- 中央教育審議会答申「道徳に係る教育課程の改善等について」2014
- 徳永正直，堤正史，宮嶋秀光他『道徳教育論－対話による対話への教育－』ナカニシヤ出版，2003
- 加倉井隆編著『中学校新学習指導要領の展開 道徳編』明治図書，2008
- 沼田裕之，増淵幸男，伊勢孝之編著『道徳教育21の問い』福村出版，2009
- 田中耕治編『よくわかる教育評価 第2版』ミネルヴァ書房，2010
- 赤堀博行著『道徳教育で大切なこと』東洋館出版社，2010
- 赤堀博行編著『心を育てる要の道徳授業 補充・深化・統合へのアプローチ』文溪堂，2010
- 林泰成，白木みどり『人間としての在り方生き方をどう教えるか～小中高12年間を通した道徳教育・キャリア教育～』教育出版，2010
- 愛知県教育委員会「明日を拓く－人間としての在り方生き方を求めて－」2013